

# 道徳科（人権）学習指導案

## 1 主題 共に生きる

### 2 主題設定の理由（省略）

### 3 ねらい

自分たちの行動や考え方を互いに見直すことで、よりよい自己や集団をめざそうとする態度を育てる。

## 4 指導計画

### （1）これまでの学習

道徳科「自分以下を求める心」（わたしの願い）	1時間
道徳科「裏庭のできごと」（あかつき）	1時間
道徳科「二枚の写真」（あかつき）	1時間
総合的な学習の時間「ユニバーサルデザイン」	5時間
総合的な学習の時間「福祉体験学習」	2時間
学級活動「リフレーミング」	1時間
学級活動「よいとこさがし川柳」	1時間
学級活動「ほめ言葉シャワー」「内観日記」「マイセルフ（自尊感情を高めるためのポートフォリオ）」「なりたい自分」「BDS（Birthday Share）」「Show認シート」	・ 常時

### （2）現在の学習

道徳科「メガネと補聴器」	1時間（本時）
--------------	---------

### （3）これから学習

道徳科「ひび割れ壺」	1時間
------------	-----

## 5 本時の学習

### （1）目標

カスミちゃんと母親の会話から、人のもつ偏見や差別意識が障がいであることに気付かせ、互いの人権を尊重しようとする意欲を高める。

ねらいとする道徳的価値	B- (6) 思いやり、感謝
-------------	----------------

### （2）普遍的な学習のテーマ・個人の尊重 共に生きる

個別人権課題名・障がい者

### （3）展開

学習活動	指導上の留意点
1 アンケート結果を確認する。	○アンケート結果を示し、実際に偏見や差別が存在していることを認識させ、自分事として捉えさせる。 ①
2 カスミちゃんが「髪を短く切って」と母親に言ったことについて考える。	○周囲の理解が安心感を与えることに気付かせる。 ②
3 母親自身の障がいに対する見方の変容について考える。	障がいとはどのようなことだろうか ○母親の気持ちの変容から、障がいとはどのようなことであるのかを考えさせる。①②

### （4）評価

・偏見や差別が障がいとなっていることを理解し、共に生きようとする意欲を高めることができたか。

【価値的・態度的側面】①

・仲間の意見をしっかりと受け止め、自分の意見を伝えることができたか。

【技能的側面】②